

「ツナミ景気」に沸く北スマトラ州メダン

高野さやか

私は現在調査のためインドネシア・北スマトラ州メダン市内に滞在している。メダン市内では地震の影響は最小限にとどまったものの、隣接するナングロ・アチェ・ダルサラーム州(以下アチェ州と略記)における被害の甚大さがメディアを通じて徐々に明らかになっていくにつれ、言葉を失った。その次には、これから何が起きるのか、調査は続けられるだろうか、余震は、治安は、などさまざまな不安が浮かび、しばらくは落ち着かない日々を過ごした。

とはいえ今のところ大きな混乱はなく、生活はほぼ平常通りである。鶏肉や米の値上がりも報道されているが、実感できるのは、人および物の移動がこれまでに激しくなっていることだ。市内にあるポロニア空港からアチェに向かう飛行機やヘリコプターの音は、早朝から深夜まで聞こえるようになった。「援助物資」の文字と提供元のロゴマークをつけたトラックがあちこち走っており、路肩に停車していたりするため、渋滞も増えた。新しいショッピングセンターには外国人の買い物客が増え、主要なホテルは数ヶ月先まで予約が入っているとのこと。

一部では、活況を呈している、といえるだろう。ツナミ景気。ビジネス・チャンス。噂話もそのあたりに集中する。「いくら外国から義捐金が集まっても、被災者には届かない」「援助物資が市場で売られている」。実際のところどうなのかは別の話として、「物資は GAM に流れている」「国軍がおさ

えている範囲にしか食料が分配されていない」「いま不足しているのは古着だ」「アチェの人は古着なんて着ない」と、それぞれくいちがいつつも話は続いていく。

そんな様子だから、寄付をする際には慎重を期す人が多い。友人を通じてある NGO を紹介してもらって、その組織がどこでどのような活動をしているか、どの程度信頼できるかを確かめたけれど、お金を渡すと使い道がはっきりわからないから、何が必要か問い合わせて、その品物を買って届けた…。これはある程度まとまった額があった場合の話であったが、なるほど、そうでもしないと、とうなずいてしまう。

援助の対象として主に想定されるのはアチェ州内の人々だが、メダンに避難してきている人はどのくらいいるのだろうか、調べてみた。市役所のまとめによれば、アチェ州からの避難民は 1 月 26 日時点で 18,106 人、親戚など個人の家滞在している場合も含めて、ひとりひとり細かく把握されている。市役所のホームページには、名前、アチェ州の住所、職業、年齢、メダンでの住所、性別、いつアチェ州に戻ったか、あるいはメダンを出てどこに移ったかなど、すべて詳細に記されているのである。地元紙アナリサは記事の中で、物資や情報を得やすくするのが目的、と書いている。

メダンに住んで半年になるが、あえて尋ねはしなかったこともあって、普段アチェが話題になる

ようなことはほとんどなかった。ここにきて、親戚が避難してきた、あるいは、子供を引き取りに行く、というような個人レベルのつながりが初めてわかり、意外な人が津波発生時にバンダアチェにいたと聞いて驚きもした。そんな状態なので、到底アチェ問題について論じるようなことはできないが、痛感するのは、被災地域に既に積み重なっている社会的要素によって、緊急援助・復興の道筋が分岐していくことだ。インドネシアが今直面している問題は、地震・津波そのものがもたらした被害だけではない。

この1ヶ月、世界中の人がそうであるように、繰り返しテレビで放映される津波の映像から知人を介したうわさに至るまで、災害の恐ろしさについても改めて思い知らされた。長期的にどんな影

響が出てくるか、生活している者としてまず気にかかる。国際的な津波観測システムが構築されるとのことだが、そもそも防災という視点からこの経験が生かされるのだろうか、と考えてみると、少々心もとない。一回性のものとしてとらえられている雰囲気がある。日本に比べれば空間にゆとりがあるので自宅はよいとしても、ここでは地震にあいたくないな、という建物も多い。

他の地域と比較しても、被害の大きさ、さらには背景にある事情からいって、アチェ州の復興に長期間を要することは確実である。国際的な注目が集まる中、今後どのような展開があるのか、また、様々な立場からの思惑が交錯するこの街が復興活動にどのように関わっていくのか、引き続き動向に注意していきたい。

【2004年スマトラ島沖地震・津波 関連情報(インドネシア・マレーシア)】

<http://homepage2.nifty.com/jams/aceh.html>

スマトラ島沖地震・津波に関連した情報として、アチェ州を中心にその近隣地域(インドネシア・マレーシア各地)を含めて、

- (1)アチェに関する基本情報
 - (2)アチェの状況を理解するうえで手がかりとなる各種情報
 - (3)被災・救援・復興に関する一般報道情報
- をまとめました。

(作成:山本博之・西芳実、協力:篠崎香織)

このウェブサイトの情報が、今回各地で被災した人たちの救援・復興や将来の防災・減災にとって何らかの助けになることを、また、世界じゅうが注目する中での復興活動を通じて、関係各方面からアチェ問題の平和的解決に向けたさらなる一歩が踏み出されることを祈っています。(山本博之)